

新型コロナ対策、気候危機打開、農林業など、9月定例県議会で県の対応をただしました。また、災害復旧の調査活動、各種の業界や団体と懇談し現状や課題について懇談しました。

山口のりひさの 県会議員



活動便り

小規模・地域循環型の 再生可能エネルギー

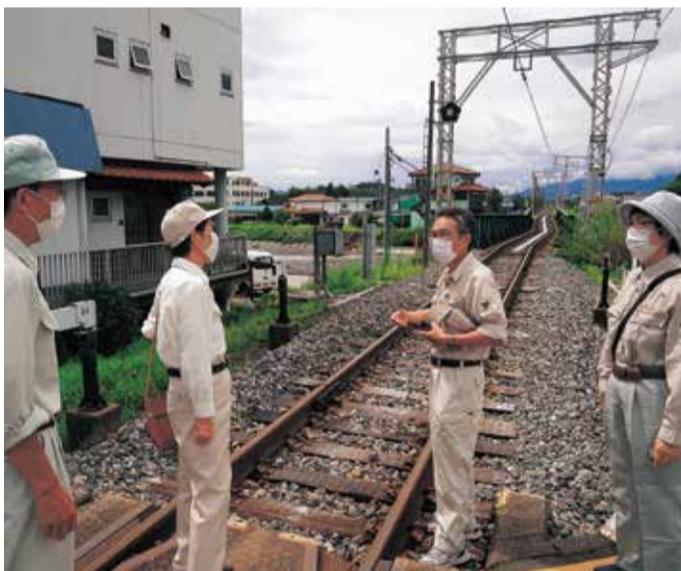
木質バイオマス発電に使用するチップなど素材生産、供給などの課題についてただし、環境に負荷を与えず地域経済を活性化させる小規模・地域循環型の取り組みを求めました。

県は、県内4ヶ所の発電所で20万トンの需要があり、素材の供給がタイトになっている。素材生産のための木材の無理な伐採は本末転倒であり、地域の身の丈にあった取り組みを進めると答弁しました。引き続き、県内の動きを注視します。

実効ある米価下落対策

新型コロナの影響で米の在庫量が増加。米価が大幅に下落し農家から「農業を続けられない」と悲鳴が上がっており、対応をただしました。

県は、飼料用米への転換が順調であり、高収益作物への転換もJAと一緒に進めていると答弁しました。しかし、農家からは政府が過剰米を買い上げて、市場から隔離するなど実効ある対策を求める声が広がっており、引き続き実現を求めています。



南信地方を襲った豪雨で鉄橋が傾き線路が折れまがったJR飯田線(辰野町・8月19日)。代替バスの運行など、一日も早い対応を求めました。



学校から体罰をなくすために

児童生徒の心身を傷つける暴力や暴言など、教職員の重大な体罰が相次いでいます。他県で実施している全学校の児童生徒などへのアンケート、教師と児童生徒が体罰について一緒に考える場など提案しました。

県は、10年間で体罰が175件あること、他県の取組も参考に必要な対策を検討すると答弁。体罰を生まない部活動の在り方など、教育活動のあらゆる場面で児童生徒と教職員が共に考える機会の充実に努めるとしました。

外国人労働者との共生

外国人の長時間、過酷な労働、賃金や各種手当の未払い、失踪や悲惨な事故や事件も相次いでいます。県が就労環境を把握すること、悩みやSOSをいち早くキャッチする相談窓口の充実を求めました。

県は、関係行政機関などと情報交換を行っており、今後とも労働環境の改善に取り組む。相談体制を整えてきたが、市町村支援とネットワーク化を一層進めたいと答弁しました。



しなの鉄道本社と懇談。新型コロナの影響で収益が落ち込んでいる実態、経営改善のための努力や今後の見通しなどお聞きしました(7月28日)。地域公共交通の存続、発展のためがんばります。



今年度は決算特別委員会に所属し、令和2年度決算の調査をしています。11月定例会まで10日間に渡り、税金の使い道など県行政全般をチェックします(諏訪地域振興局・10月11日)。

